

地域コミュニティ協議会の支援のあり方検討（中間報告）

本市は、これまで経験したことのない急激な人口減少、少子・超高齢社会を迎えています。81万市民の総力をさらに結集し、市民力・地域力と豊かな田園・自然、拠点性を活かしながら、「持続可能」をキーワードに、安心して健康な暮らしとまちの発展を実現させなければなりません。そのためには行政の力だけでは限界があります。地域からも果たしていただく役割の重要性が増す中、その主体を地域コミュニティ協議会の皆さんに担っていただきたいと考えています。

1. コミ協の位置づけ、役割を明確にします ～コミ協が地域のまちづくりの主体であることを明記～

① 役割（理念）

コミ協の役割を市の姿勢として明確に示す…条例等で規定

▷コミ協は地域のまちづくり、絆づくりの担い手

▷地域の意見を調整し、地域課題の解決と住民交流の主体となる自主・自立的な組織

② 理念をより具体的に

しっかり定義づけながら、自由度が高く弾力的な運用が可能…要綱等で規定

▷主に小学校区又は中学校区ごとに設置する

▷期待される役割の例としては、地域の防災防犯、福祉、教育、環境美化、市や他団体との協働、公共施設の維持管理、地域の特色を活かした活動など

▷市は、コミ協の自主性を尊重し、協働を進めるために必要な支援を行う

【課題】

自治会・町内会など他の地域コミュニティ組織とのバランスをどう考えるか？

<各区ワークショップ及び検討委員会意見>

- ・コミ協も区自治協議会のような、ある程度の「立ち位置」があればスムーズに動けると思う。
- ・行政がコミ協に担ってほしいことを、はっきり明記したほうが良い。

2. 運営基盤の強化と活動の活性化を支援します ～基盤づくり、活動レベルに応じた支援～

① 運営助成金を充実

▷地域のまちづくりを主体的に担うため、事務局人件費などに充てられる助成制度の検討

▷コミ協によって世帯数のバラつき…一律助成の是非 ▷活動レベルに応じた支援方法の検討

【課題】

自治会等事務委託、民生委員、消防団員、地域教育コーディネーターなどとのバランスをどう考えるか？

<各区ワークショップ及び検討委員会意見>

- ・実務のできる人を雇用できるようにしてほしい。
- ・コミ協の規模に応じた資金の上乗せをしてほしい。

② 拠点確保

▷活動の拠点として公民館のコミセン化、学校の空き教室、空き家等の活用検討

▷既存の補助制度（コミ協事務所借上補助金）の周知を強化

<各区ワークショップ及び検討委員会意見>

- ・自治会の集会所を無料で借りたり、学校の1室を常時確保することについて、行政に「橋渡し」してほしい。
- ・活動の拠点は20～30人が集まれる場所が必要である。

③ 人材育成・市職員との協働推進

▷会計や法務等、運営に直接役立つ講座、新任委員に特化した講座などの実施

▷地域で活動したい（できる）人材の登録制度 ▷地域教育コーディネーターとの連携強化

▷コミ協事例発表会の開催 ▷現役、OB問わず市職員のコミ協活動への積極参加を推進

<各区ワークショップ及び検討委員会意見>

- ・優秀な事務局の育成研修や市からの紹介または配置が必要。
- ・団塊の世代が課題解決のプロジェクトチームとして能力を発揮できるよう人材バンクを整備してほしい。
- ・市（区）役所職員にコミ協支援・活動へ参加するよう教育・指導してほしい。

④ 地域活動補助金の見直し

▷補助対象事業の再整理

▷「協働提案モデル事業」のコミ協枠の設定など、公開審査会と成果発表会の開催

<各区ワークショップ及び検討委員会意見>

- ・課題の解決になっているか評価し、補助率もそれに応じた設定とする。
- ・コミ協、NPO等申請団体によって補助率を変える。
- ・同じ事業でも、初年度と2回目では補助率が異なると実施するのが困難になる。
- ・コミ協の活動に応じて予算を決めるべき。

3. 他組織との協働・協力を推進します ～活動活性化につながる機会の創出～

① 全市のコミ協連合組織の立ち上げ

② コミ協の理解度向上の機会創出（自治会・町内会を対象）

【課題】

区自治協議会との関係をどうするか？

<各区ワークショップ及び検討委員会意見>

- ・コミ協同士の意見を話し合う場を作してほしい。
- ・自治会・町内会のコミ協に対する意識に差がある。